岡部支部だより

橋本 守

友を慕い、母校を慕う気持はお互いに年をとるに従って強くなるのは、誰しもの事と思うが、社会に出て旧友同志が一堂に会するには、まとめ役、幹事役が居ないとなか〳〵出来ないものである。同じ町内に住みながら同窓生である事を知らなかったり、同級生とも親しく話をする機会が無かったりでは、まことに情けない限りだ。最近、漸く同窓会も、支部組織等により活溌化しつつある事は誠に御同慶に堪えない。

私たちは、此の同窓の集いが、それぞれの社会的発展への足場として意義あるものに共々したいものである。

「支部活動」

六月二十日 岡部支部総会

岡部中学校に於て行う。本部より加藤先生、来岡され、会員十数名出席。役員を次の通り決定。

支部長 橋本 守
副支部長 三輪和夫
鈴木恒雄
勝山鉄之
地区長（内二上）
鈴木恒雄 （副）荻原 猛
（内二下）
水野計二 佐藤忠昭
（内一）
村松典男 高粂仁夫
（子持坂、桂島）
大畑高治 村本 実
（廻沢、岡部）
桑原得一 梅原 栄
（本郷、三輪）
大畑秀夫
（朝比奈上）
森 剛一 酒井弘明
（朝比奈下）
小柳津卯太郎 野々山幸雄
名簿担当役員 長島清志
杉山良男
以上

会費の件 徴集金額 二〇〇円
徴集方法 各地区長

同窓会支部規約の作成の件 出席会員一同作成に同意した。

八月三十日

「藤枝東高校岡部支部同窓会規約」を作成、各会員に配布した。

支部会員名簿の再確認を地区長に依頼した。

「会員の動静」

故、佐藤喜次氏（志太中三回卒）

昨年春頃より病気療養中の処、薬石効なく、十月三日永眠さる。十月四日自宅に於て告別式を行う。氏は父からの内科医師を継承され日頃は肥満型の健康体に温和な人柄で、かたわらスポーツマンとして志太サッカークラブ並びに藤枝東校サッカー後援会の副会長を歴任され、御元気の頃には志太クラブ選手として活躍された事もあり後輩をも親切に、又グラウンドにあっては、きびしく指導され今日の志太クラブ及び藤枝東校サッカーに大なる貢献をされた方である。

「支部の雑談」

◎同窓会がややもすると、学校への経済的援助や、寄附金徴集機関のような存在にしか思われなかった。現状では同窓生は学校と離れるばかりだ。同窓会の目的とする会員相互の理解と親睦をはかり、もって母校への理解を深からしむるよう本来の同窓会の姿にしたいものだ。

◎学校自身の姿勢を正し、母校へ近寄り易い、雰囲気にしていただきたい。

就職等求人願いに行っても、まことに無愛想、今少し親切みをほしい。

◎本年、始めて、母校からの体育祭、文化祭の案内状をいただき有難かった、まことになつかしく母校への親しみを感じた。今後も学校の現況、又計画等大いに同窓会員にもPRすれば、自然に母校への愛着と理解を深める事になると思う。

母校を離れて同窓会、同級会はあり得ない、互に母校を愛し、母校を理解し、母校藤枝東高等学校の発展を願って止まないものである。

（第17回 初亀醸造KK）

所感

津島健三

不況ムードのうちに今年も一カ月余りとなり、初冬の気配が漂って来ました。日頃は会員の諸兄とは御無沙汰のままで申訳なく思っています。会員相互の親睦と連絡をいよいよ密にして、この会の発展を計りたいものです。

今小生の勤先（静商高）の同窓会について見ると多数の卒業生が常に学校に訪ねて来て、或は新卒予定者を採用したい、或は学校の施設を貸してほしいと。特に求人の話は、この半年の間殆んど連日のように熱心に求めて来られた。流石に六十余年の伝統と卒業生の実績がものを云っていると思います。後輩の採用には一長一短はあろうけれど自分の仕事の一環をになわせて、協力し合って行こう。指導しつつ、能率をあげて行こうという良い方法をとっておられる。こういう一つの習慣とも見られる協力振りは実業校の場合には特に生れ易いとは思いますが、普通高校の場合も真似てよいものと思っています。不況の波が深刻化すれば、就職難の声が高まります。その時こそ先輩の温かい求人開拓を切望してやまないわけです。

先輩と後輩の縦の関係に加えて同級生や同時に在校した友人達との横の関係からも、更に強力な団結が出来ることは明らかです。同窓会発展の母体となるのは、この関係からです。毎年定期（四月二十九日）に開かれる同窓会が淋しいのは残念です。同級のものが誘い合わせて参会して下さい。そして同日同級会の一席を設ける。お互いに多忙な日を送っていますが、また、何なりと母校の同窓会事務局に連絡を取ってお互いの動静を明らかにすることも会の運営上最も大切な事柄です。母校も本館の建設を始めました。松林のあるグラウンドに立って昔を偲んで下さい。きっと千南原の思い出が蘇って来ることでしょう。

（第1回 静岡商業高等学校）

つれづれなるまゝに

渋谷昇次

母校志太中に行くたびに、懐しい思い出が若き日のそれを思わせるように浮んで来る。

すく〳〵と伸びている運動場の松、ああ、あの松は「俺が植えた松だ」、なんと大きくなったものだ!! ふり返って見ればそれは既に三十有余年前のことであった。運動場の土を毎日掘りかえして作業!! 作業!!と作業が正科であった母校、蓮花寺の池のほとりを馳足でまわりながら、西高の女学生に淡い魅力を寄せていた時代、走馬灯の如く過ぎ去り、今や同窓生諸君は六千人をこえ 多くの反対を押し切って始めたサッカーは、今や名実共に日本一となっています。誠に吾が母校は誇り得る何かを、幾つか、もっている。「新興の意気に燃える」吾が母校は、他校がやらない新しい境地を世間一般の毀誉褒貶に取らわれることなく黙々と初心に向って進んでいたことがはっきり、強く感じます。

同窓生諸君の人生街道に於てもかようであろうとほほえましい次第です。

数年前私は東京に在住する同窓生の名簿を作り会合をひらきました、現在五〇〇名の方々が名前をつらね、各方面に活躍して居ります。年一回の総会に於て「見よ東海の空高く」と東京の夜空に流れる母校の歌を懐しい思出を新たにして下さいます。

志太郡は二十八ケ町村でありましたが、今は主として藤枝、焼津、岡部、大井川の二市二町でありまして広域都市として「新しい市」として生れかわろうとして居ります。東海道メガロポリス（巨帯都市）の中心、大井川百万都市と云う大きな夢のビジョンの実現が次第に出来つつあります。この吾が郷土の開発、発展の指導的にない手は同窓生諸君の双肩にありと信じます。

吾々は何時までも若さと夢を失わないで、昨日よりは今日、今日よりは明日へと一日一日と深みと味いのある人生を送ることを祈ります。

（第2回 大井川町長）

同窓の心の支え

槙原徳治

岐阜国体に総監督としてでなく審判部員として参加したが、主力を同窓生で占める藤枝クが一般の部で伏兵、金兵庫に最少得点で敗れ、静岡工商は水戸商高に2－1で敗れるなど、いずれも不本意のしかも前古未曽有の最悪の年となり上位を占めていたサッカー静岡県は天皇杯無得点という結果に終った。

中部の関係者、一般、高校、教員の例年顔を合わせる人々から「藤枝東はどうしたのか」としきりとたずねられた。いちいち返答するのも煩わしいほどだった。それほど一般と高校に関しては高い関心があったわけ。おそらく同窓の諸君も東商の国体不出場は意外中の意外として淋しい気持ちであったろう。

常時母校が全国大会に出場し、上位の成績を獲得することを当然と考え、今年は、今度はとわくわくした気持を愉しみ、またそれを口にするとしないに拘わらず誇りとしていることは論をまたないことである。不出場はこうした同窓生の心の支えを失望に追いやった共通の関心事、心の支えは絶対に失いたくない。ひるがえって、全国大会に参加すれば高校の部では東商の活躍は大成果をあげうる立場にあるが、事実県勢の上位四校はいずれも強豪であり、何れが代表となるかは予断を許さない状態だ。藤北、清東、静工の三校の力は急激に伸びていて県内予選に勝つことの方が困難な状況にある県蹴協の普及策と各校の指導者の熱意によって急速な進歩をみせているので県蹴協関係者としては望ましい成果として喜んでいるが母校の危機ともなればまた別で、一抹の不安と危惧の念にかられるのもやむをえないことではある。

第44回インターハイは既に県内で予選が始まり11月13、14、20、21、27、28の予定をもって完結する。国体参加不能をかこった前記三校と静工との激斗は、おそらくすさまじいものと考えられる。

めにみえぬ心の支えを確かなものにするよう母校の監督 選手、OBの諸君の強化策と同窓の諸君の善意の応援を望みたい。

インターハイ代表権を得た！全国大会で優勝してくれ!!と12月の上旬にはいえるようにしてもらいたいものだ。同窓生の誇りを維持し、在校生の意気を高め各自の生活に好影響を与えることに通ずることを意識して。

（第2回 静岡大学教授）

恩師の想い出

増田俊雄

私達が志太中を卒業したのは、昭和十二年三月二日で、今から二十八年前である。当時入学したのが昭和七年四月で一年生百数名、卒業時には転校、退学等で九四名となり、卒業後戦死十四名、病死十五名で二十九名が故人となり、現在生存している者は六五名である。

入学当時の校長は石井年二先生、教頭が六浦嘉一郎先生、クラス主任がA組三井雄淳先生、B組が矢野喜一先生であった。石井先生は先年他界され、六浦先生、三井先生は不明である。

矢野先生はますますご元気で今なお母校藤枝東校の定時制を受持たれている。

クラス主任は二年生の時三井先生が転任され、後任に榎谷孝先生がなられ、四年生の時B組の矢野先生が下級生の受持と変り、後任に佐野孫一郎先生がなられたと記憶している。

榎谷先生はますますご元気で現在焼津高校にお勤めである。佐野先生は昭和三十七年に他界された由である。

卒業時の校長は宇波耕策先生、教頭は溝口伝先生であったが、両先生共今は故人となっている。

私共が教えを受けた恩師に、英語では尾崎精英先生、桑原謙先生、稲葉宏先生がおり、尾崎先生は現在清水の東海高校に、桑原先生は日大にお勤めの由であるが、稲葉先生は不明である。

物理が一年生当時山田大五郎先生、二年になって菊谷靖先生であったと思う。

山田先生は現在清水市教育長となり、菊谷先生については不明である。

国語が平井倉三郎先生、博物清水伝吉先生、地理三須佳樹先生、歴史入江萍治先生、剣道村松久一郎先生、体操小宮山宏先生であった。

平井先生は自宅に、三須先生、入江先生、村松先生は他界され、清水先生は不明である。

小宮山先生はますますご元気で藤枝東校川根分校主任としてお勤めである。先生の毎月曜日における職員、生徒全員の奉安殿礼拝時おりるスリッパの合図も一入懐しい。

次に教練が一年生当時松坂大尉、二年生光井少佐、三年伊藤大尉、四、五年が渡辺少佐であったと思う。当時は軍国華かなりし頃で、教官の異動もはげしく教練も盛んであった。

松坂大尉はその後少佐に進級し静岡連隊の副官となり大東亜戦争において北支で戦死されている。光井少佐、伊藤大尉、渡辺少佐も夫々出征されたと思うが消息不明である。

又事務室に相田先生、仲田先生がおられ、両先生共准尉で私達は教練と習学の指導を受けた。相田先生は時々朝礼時に授業料の未納者を発表したが、これも懐しい想い出の一つである。現在相田先生は他界され、仲田先生は青木の自宅に健在である。

私達第九回生は戦後毎年、静岡、焼津、藤枝、島田と地区別に当番制で同級会を開き恩師を招いているが、毎年二十五名前後の参加者があり、中学生に帰った気分で話題は仲々尽きず、洵に楽しいものである。

（第9回 静岡県漁業協同組合）

最近の焼津支部について

奥平松治

当地区に於ける支部活動は、宮崎、大塚氏などの大先輩を擁し乍ら、従来他地区に比較して、極めて不活溌であり、その為か顔見知りも段々少くなり、余計に運動も出来ないような状態でありました。

これは、先年来相次いで行われた町村合併で、地域が漸次不明確なものとなった事にも原因すると思われますが、各回とも自主的に横の連絡は年に一度乃至二度位ずつの会合で充分とられているにも拘わらず、縦の連繋が行われず、自から支部全体の活動を阻止していたようです。

昨年春、偶然各回の有志の集る機会があって、一回から二十四回位までのものが一堂に会し、誰云うともなく「支部の組織作りと強化」についての要望が起り、機会を見て是非やろうじゃあないかと衆議一致を見ました。

が、誰の音頭とりもないままに散会してしまったような訳でありますが、本年に至り、大塚、榑田大先輩から、「何とかものにしよう」と云う大命が降下し、言い出しの何とかやらで、私が結成までのお手伝いをすることになったような訳であります。

そして、各支部の規約などを参考にさせて頂き、叢案の出来たのが、六月の上旬。

早速、先輩連中の御意見をきき設立準備を有志で、七月二十三日新屋公会堂で開催しました。各回代表の方々の御出席を頂いて、規約叢案の審議を為し、組織や運営方法等について極めて活溌な御意見も出、規約案が決定したのであります。

そこで、設立発起人会を九月下旬頃開催しようと云う予定まで立てたのでありますが、却々の不精で楽天家で、至って物忘れのよい私は、まだ〳〵日限は充分あると思っている内に、十月になってしまい、早くやらないと師走という先生方のお忙がしい季節にもなると、気にしかけていた矢先、例の「アグリガン島大海難」の中心にまき込まれ、この方の仕事は全く手につかなくなってしまったのであります。

気にし乍らも遂に今日に至るも発起人会開催の事務手続きが出来なかった事は、一に私の責任で、誠にザンキに耐えません。

やっと、気分的にも仕事の上でも落付いて来ましたので、早速年内にも、前述規約案によって、焼津支部の組織がえを先輩の御指示のもとにやり度いと考えております。

まだ発起人会の決定を見なければ、規約も本ぎまりにはなりませんが、先般の有志会の案では、当地区は、会員の住所別地域を主体とする組織はとらず、横に各回の連絡をとる代議員をおき、支部の最高議決機関としては、総会に代えて代議員会を設けるようになっております。

従って、縦の運営はこの代議員会及び若干名の選出される理事会によって行われ、通常運営は理事会と会長・副会長によって執行される構成であります。

尚、代議員については、最近の卒業生の増加を勘案し、準代議員制を設け、卒業年次の会員数に応じ、代議員・準代議員をおくことが出来るように、調整をとることとなっております。

今までの支部の組織・構成が、他地区に比較して、充実していなかった事は、会員の一人として、全く恥入る次第ですが、地区会員の方々も「是非支部結成をしよう」と云う意気込みが盛んでありますので 必ずや他地区に負けない立派な支部が生れるものと確信し乍ら、その一部を受持たせて頂いている訳であります。

会報の創刊号に、こんな「最近の焼津支部」の状況を書くことは先輩諸兄はもとより、会員各位に誠に済まなく存じておるものでありますが、生れ出て来る焼津支部のために、今後共絶大な御支援を賜りますよう、至って厚かましい言い方ではありますが、是非お願いするものであります。

永年にわたり多大の御功績を残した宮崎氏と、その後を継いで会長になられた榑田氏や、今回焼津市議会議長の名誉ある重職に就かれた大塚譲氏を生んだ焼津地区が他に比べて組織化の遅れている事は、恥かしい次第でありますが、何れ近い将来に必ず立派な支部が出来るものと御期待下さって、宜しく御指導あらんことを重ねてお願いし、投稿の責を果したいと存じます。

（第4回 焼津漁業協同組合）

同窓会というもの

川崎鉄太郎

いまさらいうまでもないことだが、激しく移り変わる今の世の中では、ふるさととの思い出にしみじみ耽るというような余裕は、めったにないのが、当たり前のことになっている。それほど、人々は忙しく、また、仕事や公私の人間関係で、かなしばりにされて、自分を失っている。

ふるさとというものは、いろいろなつながりで、われわれの体や心を縛っているものであるのに、それでいて、ふるさとを想うとわれわれに体らぎを覚えるものである。

そこには、われわれの純真な幼少の世界が今なおあるからである われわれの構えた姿勢の奥に隠している本当の姿をさらしても恥かしがらなくてもよい世界でふるさとがあるからであろう。

母校というものは、そういう意味では、ふるさとと同じ感情の世界のように思われる。同窓生は、理くつなしに、情の通うものがある。思わぬところで、同窓と名のられて話しかけられるのは、まことに嬉しいものだ。

地区的な同窓会は方々で開かれているものなのか、よく知らないけれども、そういう会で、三十年以上も年令の違う同窓生が、意識や考え方の大きな差はあるにしても、清純な少年の心に戻って、利害や気がねを忘れて互いに談論風発するのは楽しいに違いない。たとえ数時間でも、現実世界を離れて童話的な世界に遊ぶことは、身心の栄養にもなるだろう。

いささか、甘く情緒的すぎる考え方といわれそうだけれど、現実的な意識の反面には、こんなメルヘン的な性格を同窓会はもっているのではないかと思う。

こんな拙文を弄することができるのが、同窓会のよさだといったら、いい気なものだと叱られるだろうか。

（第4回 新居高等学校長）